

のと里山里海未来創造セミナー

医療とケアで高める コミュニティ・レジリエンス

2026年
3月14日(土)
13:30-16:20

会場

日本橋ライフサイエンス
ビルディング9階会議室
および
オンライン配信

参加費
無料

※要事前申込

-CONCEPT-

-PROGRAM-

金沢大学は、令和6年能登半島地震からの能登の創造的復興に資するため、「能登里山里海未来創造センター」を設置し、文理医融合の「オール金沢大学」の体制で活動している。

研究を主とする「まち・なりわいづくり部門」は、能登の復興・再生を起点とした新たな社会モデル構築を目指しており、遠隔・デジタル医療や災害保健・地域ケアシステム、オフグリッド、文化財保護など、過疎高齢化が進む能登の地域特性に応じた、多様な実証研究に着手することとしている。

本セミナーでは、「災害に強いまち・能登」の実現に向けた、地域の「レジリエンス」を高める取り組みについて、医療・ケア分野の研究者がそれぞれの活動を紹介する。

13:30-14:10 開会あいさつ・講演

谷内江 昭宏 (理事・副学長 / 能登里山里海未来創造センター長)
テーマ：尊厳ある復興と大学の役割

14:10-16:10 研究報告

野村 章洋 (融合研究域融合科学系 教授)
原 章規 (医薬保健研究域医学系 教授)
田中 浩二 (医薬保健研究域保健学系 教授)

16:10-16:20 閉会あいさつ

中村 慎一 (理事・副学長 / 能登里山里海未来創造センターまち・なりわいづくり部門長)

【申込方法】

下記 URL、もしくは2次元コードからオンラインで事前登録をお願いいたします。



金沢大学
能登里山里海未来創造センター
Noto Resilience and Revitalization Center

【お問合せ先】 金沢大学能登里山里海未来創造センター事務局
notomirai@adm.kanazawa-u.ac.jp



<https://ws.formzu.net/dist/S715403974/>

発表概要

尊厳ある復興と大学の役割

谷内江 昭宏

理事・副学長 / 能登里山里海未来創造センター長



持続的な人口減少と少子高齢化という地政学的課題を抱えた地域を、令和6年能登半島地震と令和6年奥能登豪雨が直撃した。発災以降、多様性に富む能登里山里海の集落の在り方が根本から問い直されている。集落ごとの固有のものがたりを尊重しながらも広域の視点で新しい復興のあり方を模索するために、研究し提言する大学の役割が問われている。

地域中核大学としての能登復興支援事業とヘルスツーリズム

野村 章洋

融合研究域融合科学系 教授



金沢大学が「内閣府・地域中核イノベーション創出環境強化事業」を通じて推進する、観光を軸とした新産業創出と能登復興支援について概説する。特にヘルスツーリズムを起点とし、観光客と地域住民双方の健康・ウェルビーイング向上を目指す実証研究や、地元企業と連携した新産業創出に向けた取り組みについても紹介する。

災害関連疾患の個別化予防法の開発に向けた取組 — 志賀町研究から —

原 章規

医薬保健研究域医学系 教授



能登半島地震に伴う被災者が直面する健康課題を分析することは、脆弱な集団を特定し、将来の効果的な予防法を開発する上で重要である。本セミナーでは、生活習慣病の個別化予防法開発のために震災前より実施している志賀町でのコホート研究の概要とともに、災害関連疾患の個別化予防法開発に向けた取組についてご紹介する。

コミュニティアケアを通じた復興支援

田中 浩二

医薬保健研究域保健学系 教授



医薬保健研究域保健学系では、毎月1回仮設住宅の集会議場で「健康づくりのひろば」を開催し、保健学系の教職員と学生による健康相談や測定、フットケアなどを行っている。住民の皆様や地元高校生をはじめ地域の様々なパートナーの皆様のご協力で継続できている。住民の皆様と共につくる中長期的な健康および復興支援についてご紹介する。

会場案内

日本橋ライフサイエンスビルディング (東京都中央区日本橋本町 2-3-11)

- 東京メトロ銀座線・半蔵門線「三越前」駅 A6 出口より徒歩 3 分
- JR 総武快速線「新日本橋」駅 5 番出口より徒歩 2 分
- JR 山手線・京浜東北線・中央快速線「神田」駅南口より徒歩 11 分
- JR 山手線・京浜東北線・中央快速線「東京」駅日本橋口より徒歩 13 分

